えんがわ

2018 年 12 月 1 日発行
出雲市古志町 344
社会福祉法人ことぶき福祉会
『笑庵ことぶき』
発行責任者：施設長　加田　誠
TEL:(0853)25-7701
FAX:(0853)25-7702
Mail:shouan@carol.ocn.ne.jp

ある日の朝、「おすしが食べたいなぁ」と N さんがポツリと言われました。

おいしいものを食べることが大好きな N さん。

時々職員が声を掛けて外食に行かれることはありましたが、自分から言われることはあまりないので、それを聞いた職員は、「じゃあ今日のお昼に食べに行きましょう」と、お寿司を食べに出掛けました。他２名の方にも声を掛けて、少人数で行きました。

その日、たくさんのお寿司を食べられ、「おいしいわぁ。たくさん食べたわぁ。」と満足されたようでした。一緒に行かれた方も、「よかったわぁ。N さん、また誘ってよ。」と声を掛けられました。

日頃から外食に限らず、お年寄りさんの「〇〇したい」という言葉を大切にし、できるだけ答えるようにしています。普段言葉が少ない方も職員が尋ねると答えられたり、表情を見て答えたりするようにしています。

反対に「やだよ。」という言葉も大切にしています。なんでも言える環境、本人の意思を尊重できる環境でありたいと思っています。

これからも一人一人の言葉や表情に目や耳を傾け、日々の生活が満足してもらえるように努力していきたいと思います。

今年も皇帝ダリアの花がきれいに咲きました。

１１月２９日に笑庵ことぶきの岸氏がスウェーデン、デンマークの視察研修の報告会をしました。その報告会での感想の一部を紹介したいと思います。

・北欧では、在宅での暮らしが主体であるという考えは、本当に個人を大切にするかどうかを追及した先に生まれた選択肢であり、日本とは文化が全く異なっているというのをとても感じました。日本では、個の重視はもちろんありますが、やはり要介護状態では高齢者としてくくられて施設入所に目が向けられ、年老いても自由な在宅の暮らしが保障されていないのは老人の個の尊重がまだまだ足りないのではないかと思います。また、在宅生活を支える制度も弱く、施設に頼ってしまうのかもしれません。今後、個の暮らしを強く望む高齢者はもっと増えるはずで、それに応えられる医療、福祉の仕組みを整えるべきと思いました。

・デンマークの「福祉三原則」が法律ではなく、高齢者を生きる主体として捉え、高齢者福祉政策の基本理念であったことには驚きました。当事者たちの声も含めて決めたその理念を、国民は理解、納得したうえで、自分たちの生計を立て医療、福祉（自分の老後）も考え生活されていることは、国、政策、制度への信頼があるからこそだと思いました。

居室でもゆっくりと過ごしておられます

サツマイモ堀り